



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年10月31日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所 東
 コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 信太郎
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役 (氏名) 江森 進 (TEL) 03-3779-8058
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 2019年11月20日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家及びアナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	27,660	△2.2	1,374	△36.3	2,039	△25.3	326	△78.5
2019年3月期第2四半期	28,272	△0.1	2,158	△10.1	2,730	2.5	1,516	△21.7

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △365百万円(-%) 2019年3月期第2四半期 800百万円(△64.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	3.85	—
2019年3月期第2四半期	17.87	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	97,217	50,758	51.9
2019年3月期	95,185	52,396	54.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 50,459百万円 2019年3月期 52,109百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
2020年3月期	—	15.00			
2020年3月期(予想)			—	20.00	35.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期(予想)期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 記念配当 5円00銭

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	57,700	△2.4	4,000	△16.4	5,000	△14.3	2,300	△40.7	27.10

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付書類P.11「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期2Q	89,065,301株	2019年3月期	89,065,301株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	4,208,583株	2019年3月期	4,208,583株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期2Q	84,856,718株	2019年3月期2Q	84,846,798株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(会計方針の変更)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、国内では、テーマパーク事業が好調で、特に東京都多摩市のサンリオピューロランドが好調でした。国内物販事業では、サンリオキャラクター大賞や、ヒット商品による集客効果などにより、顧客年齢層が広がり、増収となりました。一方、海外では、中国での上位ライセンサーに対する売上減少や、香港のデモによる店頭売上の落ち込みによる物販、ライセンスへの影響や、香港を含む東南アジアでのプロモーション売上の縮小により減収となりました。また、欧州のライセンス事業は依然厳しい状況にあり、想定より業績回復が遅れております。これらの海外でのライセンス収入の減少が大きく影響し、売上高は、276億円（前年同期比2.2%減）と微減に留まりましたが、販売費及び一般管理費が増加したことにより、営業利益は13億円（同36.3%減）となりました。営業外収益として投資事業組合運用益等を計上したことにより、経常利益は20億円（同25.3%減）、特別利益に投資有価証券売却益等2億円、特別損失に欧州委員会からの欧州競争法に関する課徴金を競争法関連損失として7億円、投資有価証券評価損3億円等を計上し、法人税等合計で5億円を計上した結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は3億円（同78.5%減）となりました。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第2四半期連結累計期間の対象期間は、2019年1月～6月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第2 四半期	当第2 四半期	増減	増減率	前第2 四半期	当第2 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	168	172	4	2.7%	16	11	△4	△26.6%
	ロイヤリティ	47	46	△0	△1.7%				
	計	215	219	3	1.8%				
欧州	物販その他	0	0	△0	△67.3%	△0	△2	△1	-
	ロイヤリティ	10	7	△3	△30.2%				
	計	10	7	△3	△30.5%				
北米	物販その他	4	3	△1	△22.8%	△5	△4	0	-
	ロイヤリティ	7	7	0	1.1%				
	計	12	11	△1	△8.5%				
南米	物販その他	0	0	△0	△51.8%	0	0	△0	△1.8%
	ロイヤリティ	2	2	△0	△6.7%				
	計	2	2	△0	△8.1%				
アジア	物販その他	5	5	△0	△6.6%	15	13	△2	△15.7%
	ロイヤリティ	36	31	△5	△14.2%				
	計	42	36	△5	△13.2%				
調整額		-	-	-	-	△4	△4	0	-
連結	物販その他	178	181	3	1.7%	21	13	△7	△36.3%
	ロイヤリティ	103	94	△9	△8.8%				
	計	282	276	△6	△2.2%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益（営業利益）には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

① 日本：売上高219億円（前年同期比1.8%増）、営業利益11億円（同26.6%減）

物販事業は、7月以降もキャラクターワイド商品（ペットボトルシリーズ、ポーチ等）や、当りくじが広い年代の客層に支持されました。さらに、エンジョイアイドルシリーズ商品の発売で、今までにない新しい客層（アイドルのファン層）を取り込むことができました。客数が前年同期比で117.0%と伸長したことで、既存店売上（直営店及び百貨店の当社直営ショップベース）は、110.6%と前年同期を大きく上回りました。また、百貨店では、『ハローキティ』45周年を記念した期間限定ショップを展開し、販促策も好評で、さらなる認知度アップにつながりました。また11月中旬には、南町田グランベリーパークにエンターテインメントを提供する直営店をオープンします。

卸部門の売上高は、前年同期比105.5%と伸長しました。取引先のイオン、ドン・キホーテ、EC取引先のAmazonへの売上が好調でした。今後さらに、既存取引先に次ぐ柱となる有望チャネル獲得に向けて営業強化をしてまいります。

第3四半期は、最大のシーズンである年末商戦を迎えますので、引き続き好動向のキャラクターワイド商品に加え、昨年好動向を示した、あったか関連アイテムや年末・クリスマスギフト商品を販売強化し、販促策と絡めて売上増につなげてまいります。

ライセンス事業の商品化権ライセンスでは、アパレル全般の天候不順による不振の影響はありましたが、サンリオキャラクターのワイド展開とアニメ系コンテンツとのコラボレーション企画、新規の大手食品メーカーとの展開が好調でした。対企業企画では、訪日外国人旅行者向けのICカード乗車券「パスモ」やセブンイレブンのオリジナルくじなどオールキャラクター企画が大きく貢献しました。また株式会社資生堂との取り組みでは、『ハローキティ』と写真家・映画監督の蜷川実花さんとのコラボレーション商品が資生堂パーラーと化粧品で展開されました。すかいらくグループの『シナモロール』キャンペーンやスリーエム ジャパングループのキッチンスポンジなどのキャンペーンも堅調でした。

テーマパーク事業は、東京都多摩市のサンリオピューロランドで、入園者数が775千人（前年同期比8.2%増）と前年同期比58千人増加しました。若い女性向けにSNSを使い情報発信を実施したことによる効果が増員の一番の要因となりました。コーデ割引（イベントに指定の服装で来園すると割引になる）、学パス割引、ペア割引、企業とのタイアップ割引の利用に伴い当日券での追加利用が増加しました。また、テレビ取材が放映されたことにより当園の認知度が上がったことも要因の一つとなりました。入園者増により、チケット売上、お土産などの商品売上、レストラン売上が前年同期に比べ2桁の伸び率となりました。商品では特にカチューシャなどの身につけグッズが好評でした。営業損益は、イベント開催に伴う人件費、館のレストランの改修による償却費等の費用の増加を補い増益となりました。大分県のハーモニーランドでは、入園者数が248千人（前年同期比0.8%増）と前年同期比で2千人弱の増加でした。第1四半期は、大型連休や、大型の会員企画により入園者数を伸ばしました。第2四半期は、個人客は、企画割やタイアップ割などの各種施策割により前年実績を上回り、インバウンド客も好調に伸びました。しかしながら、7月は前年より2週間梅雨明けが遅く、8月も後半の長引く雨により前年より1週間程雨天の日が多くありました。さらに、台風の襲来がお盆や9月の秋分の日の連休など繁忙日に当たり、集客については期間を通じて雨の影響を大きく受け予想を下回る結果となりました。売上は『ウィッシュミーメル』の導入に合わせた商品やお土産品などの売上が好調に推移したことで増収増益となりました。

② 欧州：売上高7億円（前年同期比30.5%減）、営業損失2億円（同1億円損失増）

欧州では、イタリアでの復調がみられましたが、ドイツ、フランスでの不調や、前年同期にミニマムギャランティ未達分の売上計上があったことによる影響が大きく減収減益となりました。

③ 北米：売上高11億円（前年同期比8.5%減）、営業損失4億円（同61百万円損失減）

ライセンスでは、主力のアパレル、玩具のカテゴリーが苦戦しましたが、「Converse」や「Herschel」とのブランドコラボレーションや、化粧品チェーン店でのCrème shop（コスメ）の展開などが売上に貢献しました。物販では、EC事業含め店舗売上は順調でしたが、中南米向けの卸売の減少が影響しました。

④ 南米：売上高2億円（前年同期比8.1%減）、営業利益12百万円（同1.8%減）

南米地域は、現地通貨ベースでは、増収増益でしたが、レアル安が大きく影響しました。ブラジルでは、サンダルのコラボレーションが好調でした。メキシコでは、アパレルや家電での既存の取引が依然苦戦しておりますが、ヘルス&ビューティのカテゴリーにおいては、トップライセンサーとの取り組みが好調でした。

⑤ アジア：売上高36億円（前年同期比13.2%減）、営業利益13億円（同15.7%減）

香港・マカオ市場では、米中貿易摩擦やデモによる消費の冷え込みもあり、トップライセンサーの売上が低下するなどの影響を大きく受けております。タイ市場では、大型企業キャンペーン案件の減少に伴い減収となりました。一方、フィリピン、インドネシアにつきましては、まだ市場規模が小さいものの大幅増収となりました。

台湾では、前期にテーマパーク関連での一時的な売上の計上があったことに加え、企業キャンペーン案件の減少を含め各カテゴリーで苦戦しました。

韓国では、人気アニメのキャラクター『リルリルフェアリル』の落ち込みが大きく影響し減収減益でした。

中国では、引き続き宝飾品市場の成長の伸び悩みによりアクセサリ関連の大手取引先が落ち込んでいる他、その他トップライセンサーに対する売上獲得にも苦戦しております。新規取引先数は着実に増加を続けており、企業プロモーションも増加しましたが、トップライセンサーの落ち込みをカバーするに至りませんでした。人民元安も減収減益の要因となりました。キャラクターの多様化の面では、企業プロモーションへの採用により『ぐでたま』が躍進し、Anta Kidsとの取引により『けろけろけろっぴ』も伸長しました。

参考：海外子会社 売上高・営業利益（現地通貨ベース：連結消去前個別財務諸表数値）

	売上高			営業利益
	ロイヤリティ	物販	計	
ドイツ 千EUR	4,513	20	4,533	△1,342
(前年同期比増減%)	△28.6	△40.8	△28.6	—
英国 千GBP	1,321	4	1,325	△713
(前年同期比増減%)	△22.6	△86.5	△24.0	—
北米 千USD	6,667	3,491	10,159	△4,094
(前年同期比増減%)	0.2	△23.0	△9.2	—
ブラジル 千BRL	9,053	128	9,182	430
(前年同期比増減%)	3.9	△46.5	2.6	7.8
チリ 千CLP	—	6,419	6,419	△50
(前年同期比増減%)	—	△11.3	△11.3	—
香港 千HKD	55,457	28,332	83,790	25,894
(前年同期比増減%)	△18.7	△4.8	△14.5	△24.1
台湾 千NTD	152,751	17,833	170,585	53,766
(前年同期比増減%)	△10.9	△60.2	△21.1	△14.4
韓国 千KRW	3,687,430	216,674	3,904,104	716,976
(前年同期比増減%)	△10.6	14.4	△9.5	△24.1
中国 千CNY	87,273	41,966	129,239	42,971
(前年同期比増減%)	△6.5	27.8	2.4	△1.9

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は972億円で前連結会計年度末比20億円増加しました。資産の部の主な増加項目は現金及び預金37億円です。主な減少項目は受取手形及び売掛金10億円、投資その他の資産のその他9億円です。

負債の部は464億円で前連結会計年度末比36億円増加しました。主な増加項目は有利子負債（1年内償還予定社債を含む）39億円、固定負債のその他7億円です。主な減少項目は退職給付に係る負債7億円です。純資産の部につきましては、507億円で前連結会計年度末比16億円減少しました。これは主に、配当金の支払等による利益剰余金9億円、為替換算調整勘定11億円の減少によるものです。自己資本比率は51.9%で前連結会計年度末比2.8ポイント減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の連結業績予想につきましては、2019年7月31日に公表しました連結業績予想から変更しております。本日公表の「第2四半期累計期間の業績予想と実績との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。なお、当期配当予想につきましては、公表どおり、第2四半期に15円、期末20円（記念配当5円を含む）の年間35円の計画を継続します。

(参考) 海外地域別損益～第2四半期の3期推移

(単位:百万円)

地域		外部顧客に対する売上高					営業利益				
		2017/9	2018/9	増減率 (%)	2019/9	増減率 (%)	2017/9	2018/9	増減率 (%)	2019/9	増減率 (%)
欧州	ドイツ	810	828	2.2	559	△32.5	△52	5	—	△167	—
	英国	201	185	△8.1	145	△21.8	△58	△104	—	△108	—
	小計	1,012	1,013	0.2	704	△30.5	△111	△99	—	△276	—
北米	米国	1,336	1,218	△8.8	1,114	△8.5	△463	△512	—	△450	—
南米	ブラジル・チリ	448	286	△36.1	263	△8.1	69	12	△82.0	12	△1.8
アジア	香港	1,421	1,315	△7.5	1,167	△11.3	530	502	△5.2	371	△26.1
	台湾	640	744	16.2	554	△25.5	217	231	6.1	191	△17.1
	韓国	446	435	△2.5	375	△13.8	112	95	△14.9	69	△27.7
	中国	1,559	1,715	10.0	1,558	△9.1	713	746	4.6	696	△6.6
	小計	4,068	4,210	3.5	3,654	△13.2	1,574	1,575	0.1	1,329	△15.7
合計		6,865	6,728	△2.0	5,736	△14.7	1,069	977	△8.6	614	△37.1

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	43,814	47,553
受取手形及び売掛金	6,866	5,832
商品及び製品	4,276	4,943
仕掛品	32	66
原材料及び貯蔵品	115	174
未収入金	614	518
その他	797	716
貸倒引当金	△130	△61
流動資産合計	56,387	59,742
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,405	5,362
土地	8,473	7,825
その他(純額)	2,033	2,761
有形固定資産合計	15,912	15,948
無形固定資産	3,397	3,181
投資その他の資産		
投資有価証券	11,524	11,505
繰延税金資産	2,683	2,394
その他	6,321	5,416
貸倒引当金	△1,071	△1,008
投資その他の資産合計	19,458	18,307
固定資産合計	38,768	37,438
繰延資産	29	36
資産合計	95,185	97,217
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,433	4,865
短期借入金	6,869	8,562
未払法人税等	678	460
賞与引当金	495	494
返品調整引当金	3	14
株主優待引当金	29	46
ポイント引当金	87	83
事業構造改善引当金	247	—
その他	10,046	9,835
流動負債合計	22,891	24,362
固定負債		
社債	2,384	1,598
長期借入金	9,027	12,010
退職給付に係る負債	5,157	4,375
その他	3,327	4,113
固定負債合計	19,896	22,097
負債合計	42,788	46,459

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	3,409	3,409
利益剰余金	55,114	54,168
自己株式	△11,762	△11,762
株主資本合計	56,762	55,815
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△231	△101
繰延ヘッジ損益	△0	△0
為替換算調整勘定	△1,786	△2,979
退職給付に係る調整累計額	△2,634	△2,275
その他の包括利益累計額合計	△4,652	△5,356
非支配株主持分	287	298
純資産合計	52,396	50,758
負債純資産合計	95,185	97,217

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	28,272	27,660
売上原価	9,946	9,772
売上総利益	18,326	17,888
返品調整引当金繰入額	—	11
返品調整引当金戻入額	15	—
差引売上総利益	18,341	17,877
販売費及び一般管理費	16,182	16,502
営業利益	2,158	1,374
営業外収益		
受取利息	224	258
受取配当金	107	114
為替差益	83	—
投資事業組合運用益	242	169
その他	128	293
営業外収益合計	785	836
営業外費用		
支払利息	54	52
為替差損	—	49
支払手数料	141	59
その他	17	10
営業外費用合計	214	171
経常利益	2,730	2,039
特別利益		
固定資産売却益	—	75
投資有価証券売却益	454	178
特別利益合計	454	253
特別損失		
固定資産処分損	3	57
投資有価証券評価損	448	395
減損損失	9	64
競争法関連損失	—	768
事業構造改善費用	289	48
その他	15	20
特別損失合計	766	1,354
税金等調整前四半期純利益	2,418	938
法人税、住民税及び事業税	915	510
法人税等調整額	△34	81
法人税等合計	881	591
四半期純利益	1,537	346
非支配株主に帰属する四半期純利益	20	19
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,516	326

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	1,537	346
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	723	130
繰延ヘッジ損益	3	△0
為替換算調整勘定	△1,806	△1,201
退職給付に係る調整額	343	358
その他の包括利益合計	△736	△711
四半期包括利益	800	△365
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	786	△376
非支配株主に係る四半期包括利益	14	11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業的前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

国際財務報告基準を適用している子会社は、第1四半期連結会計期間より、国際財務報告基準第16号「リース」(以下「IFRS第16号」という。)を適用しております。これにより、リースの借手は、原則としてすべてのリースを貸借対照表に資産及び負債として計上することとしました。IFRS第16号の適用については、経過措置として認められている、本基準の適用による累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用しております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末の「有形固定資産」が388百万円増加し、流動負債の「その他」が148百万円及び固定負債の「その他」が242百万円増加しております。当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	21,544	1,013	1,218	286	4,210	28,272	—	28,272
(うちロイヤリティ売上高)	(4,718)	(1,003)	(726)	(278)	(3,656)	(10,382)	(—)	(10,382)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,773	14	2	0	573	3,364	△3,364	—
(うちロイヤリティ売上高)	(2,617)	(14)	(—)	(—)	(0)	(2,632)	(△2,632)	(—)
計	24,317	1,028	1,220	286	4,784	31,637	△3,364	28,272
セグメント利益又は損失(△)	1,613	△99	△512	12	1,575	2,590	△431	2,158

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △431百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	21,923	704	1,114	263	3,654	27,660	—	27,660
(うちロイヤリティ売上高)	(4,636)	(701)	(734)	(259)	(3,137)	(9,469)	(—)	(9,469)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,261	7	4	0	612	2,886	△2,886	—
(うちロイヤリティ売上高)	(2,149)	(7)	(—)	(—)	(0)	(2,156)	(△2,156)	(—)
計	24,184	712	1,118	264	4,267	30,547	△2,886	27,660
セグメント利益又は損失(△)	1,184	△276	△450	12	1,329	1,799	△424	1,374

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △424百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため記載を省略しております。